

友好交流会  
日中友好  
北進  
県推進

延岡市の  
友好都市

# 大連金普新区訪問

## 成果を讀谷山市長に報告



大連訪問を報告する佐藤会長（中央）と岡田社長（右）＝26日、延岡市役所

延岡市と友好都市の盟約を結ぶ中国・大連金普新区を今月6～9日に訪問した東北地区日中友好推進交流会（佐藤邦典会長）は26日、市役所で讀谷山洋司市長に訪問の成果などを報告した。

訪問団は3日目に区役所に相当する同新区管理委員会を訪問し、商務局の生偉副局長や小中高の校長らと会談。延岡市が力を入れる民泊や修学旅行の誘致をアピールすると、

学校関係者も「チャンスがあれば実現したい」などと関心を示していたという。

同会は6年前にも大連訪問しており、佐藤会長は「まだまだ発達途上だと実感した。非常に新鮮みを感じた」と感想。「これからはフォローが不可欠。旅行会社へのアプローチや補助金制度が必要だが、民間団体では限界がある」と協力を要請した。讀谷山市長はこれまででの受け入れて民泊事業者も経験を積んできている。修学旅行を切り口に広がついていくといい」と話した。

また、4月に友好都市締結後の第1号として出店した岡田花店の岡田明利社長は、ホテルから日本式フライタールの発注を受けるなど事業が進んでいることを報告。「12月には試験的に延岡のスイートピエーを大連に出荷したい」と意気込んだ。

さらに「延岡市に窓口を設けてもらうことで、新しい人が取り組みやすくなる」と、今後も大連に進出する企業を増やすための政策もお願いした。

（8面に大連ルポの連載）

# 韓国の小中学生4人が来延

## 延岡東RC 青少年交流で友好深める

延岡東ロータリークラブ(RC) (新田哲史会長、61)の姉妹クラブで、韓国・安東市にある西安東RC会員の子どもたち4人が、25日から4泊5日の日程で延岡市に滞在し、友好を深めた。

両RCは、1982年 流を継続。2004年から毎年交互に会員の子どもから姉妹クラブとして交 ーら青少年交流事業として ーらを派遣している。



15回目の今回は、西安東RCのナ・チャンドン会長(51)ら会員4人と共に9〜12歳の男子1人、女子3人が来延。25日に延岡入りし、翌26日は市役所に読谷山洋司市長を訪ねた。

懇談で、西安東RCのナ会長(51)は「初めての日本が延岡で光栄。子どもたちが日本について学ぶ機会にしたい」とあいさつ。小学6年生のキム・ソニーさんとキム・

スフィさんは延岡の印象について「韓国に似ているところも明るいところ。食べ物もおいしい」と笑顔で話した。

滞在中、子どもたちは延岡東RC会員宅にホームステイ。28日にはまつりのべおかの花火大会を楽しみ、29日に帰国した。

延岡東RCの新任会長は「互いの国を行き来して交流を図ることで、言葉は通じなくても心は通じるということを体感できる。こういう機会を通じて視野の広い人間に成長すると期待している」と話していた。

2019. 7. 21